



心理学科

Department of Psychology

教育の理念

心理学科では、幅広い守備範囲を覆う多彩な教員が協力して、皆さんに心理学の全貌を基礎から応用までしっかり学んでもらうことを目指しています。その具体的実現策として、「認知」と「発達」という二本の柱を大切にしています。「認知」とは、環境を知覚し、学習し、記憶し、思考する知的な心の働きを科学的に調べていく心理学の領域。また「発達」とは、親や学校、社会との関わりの中で育っていく子どもたちの情緒的、対人的やとりとを見つめ、よりよい心の成長を目指す研究領域です。これらをバランスよく学ぶことで、人間の心の理解と心の病などを客観的・科学的に見つめて対応する能力を身につけます。



木村さん：
心理学というよく、「人の心を読むの？」と聞かれますが、教育・社会問題に関わっていたり、範囲が広いからおもしろいですね。授業も実験や調査が多いから、身に付きやすく、授業に行くのが楽しいと思えるんです。

吉村教授：
心を読むというより、“はかる”だね。人間の行動や言葉を客観的に“はかる”視点が身に付く。人との関わりが欠かせない社会において一番必要とされる力だと思うし、様々に応用できる。

木村さん：
私は食品パッケージを作成する仕事に就きたいと思っています。色によって人が連想する味の印象は違うので、心理学を活かして考えればおもしろいかなと。色々なことができるのが心理学。

吉村教授：
そうだね。法政大学は教員陣の専門領域が多様だから、色々な興味に応えられる。自分に合った学びの環境がきっと見つかると思いますよ。

心理学科の特徴

心理学科では、こころのメカニズムを解明する「認知系心理学」と、こころの発達過程を探求する「発達系心理学」を二本柱に、心理学の基礎から応用まで最新の成果を織り込んだ、高度な学習を受けることができます。より心理学を追究したい人は、大学院に進学することにより、学校心理士や臨床心理士などの資格取得への道も開け、こころのスペシャリストとしての多様な進路を選択できます。

POINT 1 心の動きを科学的に見つめる力

「こころ」にあらゆる角度からアプローチする心理学科では、心の働きを実証的に見つめるため、実験や実習、フィールドワークなど、少人数で行う実践的な授業形態を重視しています。心理学では多くの分野で実験・調査・観察・検査・面接など科学的な方法が用いられていて、客観的なデータから論理的に導き出される結論が求められます。実験や実習を重ねることで、見る・読む・話す・聞く・覚える・考える・感じる・行動するなど、人間の生活を支える様々な能力を学び、自分自身や他者の心の働きへの理解をより高めます。



少人数で実践的な授業形態を重視しています。

POINT 2 社会に出てからも役立つスキル

心理学の仕事で思い浮かべるのは「カウンセリング」かもしれません。しかし、世の中のほとんどの職業は何らかの形で人と関わっています。人間の心を科学的に解明する手法は、あらゆる職業に応用できる実践的な道具となります。

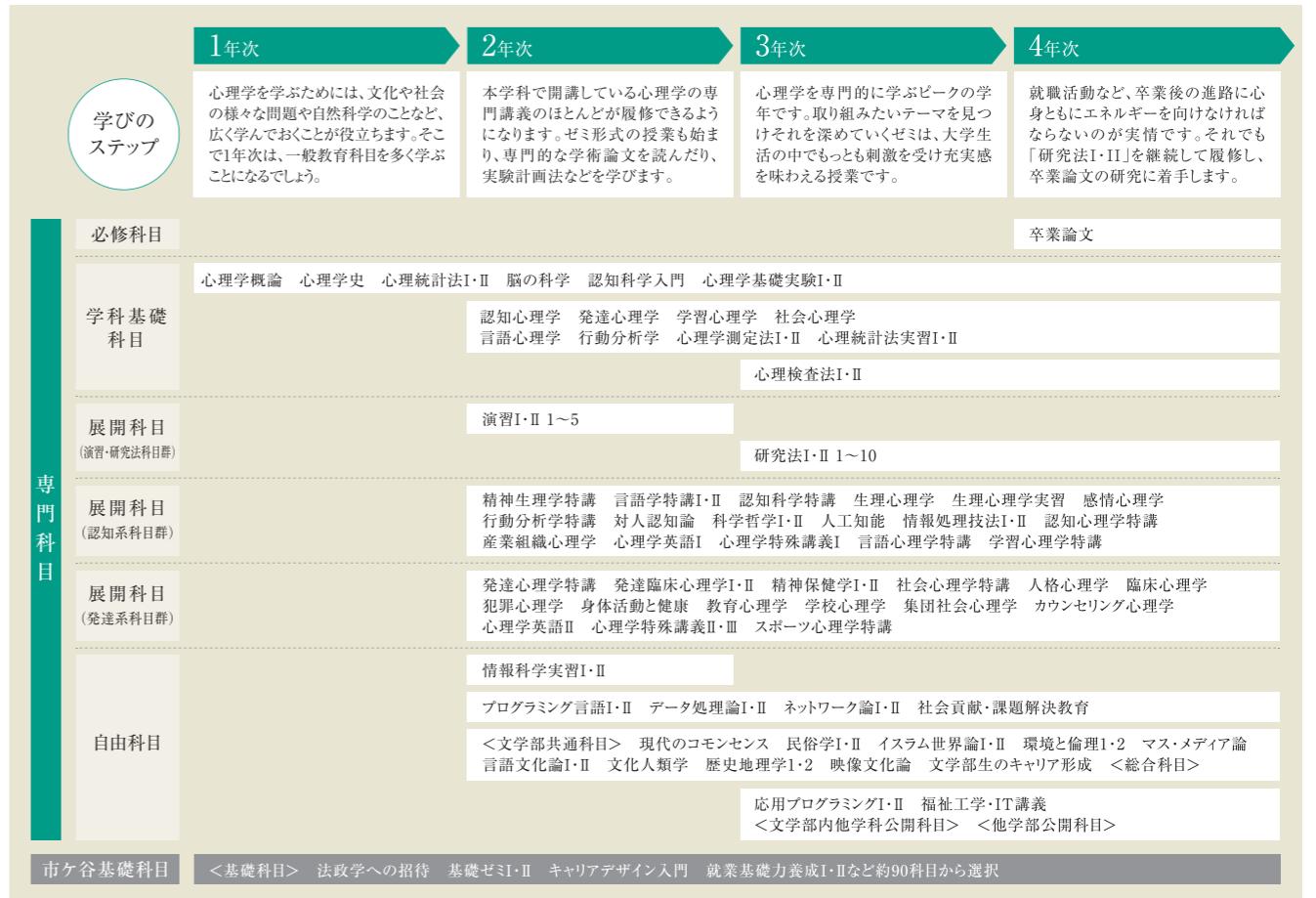
POINT 3 広がる将来の夢

一般企業への就職はもちろん、心理学の能力を直接生かせる教育相談機関や福祉機関、司法・矯正機関などの公務員を目指すことも奨励しています。大学院に進学し、研究職や心理学に関わる資格を目指す人も少なくありません。

POINT 4 所定の単位を修得して資格を取得

「認定心理士」のほか、「教員免許」や「図書館司書」「学校図書館司書教諭」、「博物館学芸員」「社会教育主事」の資格取得も可能。国家公務員や地方公務員を目指す学生たちのための勉強会を組織するなど積極的に支援しています。

4年間の学びの流れ／カリキュラム



*カリキュラム表および科目名は、変更になる場合があります。